

## 令和元年度 事業報告

### 1) 総括的概要

令和元年度は、継続事業であるまちゼミの開催を2回実施した。

7月27日に、「荒井さん！本気で挑戦するってどういうこと?!」と題し、東明館理事長に就任されたばかりの荒井優さんと津屋崎ランチの山口寛さんをお招きし、出席者42名の参加者で予定人数を大きく上回り、奈良県、長崎県、大分県など町外、県外の参加者も目立った。講師お二人と参加者を巻き込んだ対話型講演会では、教育についてのみではなく、経営やカルチャー、ビジョンや哲学的要素が盛り込まれた時間となった。

また、10月3日には障害者福祉サービス事業所PICFA施設長の原田啓之さんに「破壊力200%！人と人の中にある障害を破壊する」～障害者施設が地域資産となりうるのか～と題し、講演を行った。参加者は35名で、人と人の障害を破壊した先には、優しい繋がりが生まれ、人や地域との繋がりが同時に生まれると感じた等の感想があった。

重点目標の1つ目である魅力ある空間づくりでは、チャレンジショップへの支援としての活動の中で、7月6日に和茶カフェ「Tea +」（ティープラス）が新たにオープンし、週金土曜日の営業では今までに見られなかった若いお客様の来店につながった。

重点目標の2つ目としての、自ら稼ぐ組織としての基盤強化では、1年間を通じて49回販売を行った「水よう日のパン屋さん」が昨年を上回る売上を更新した。東明館バイオ部との連携事業としての基山酵母の量産体制も確立でき、多くのお客様からの支持を集めた他、様々な交流が生まれる場としての成果に繋がった。更に佐賀県NPO指定ふるさと応援寄付では、約90万円の寄付を頂き財政上においても大きく貢献した。

重点目標の3つ目である多種多様な人材との交流では、先述の「水よう日のパン屋さん」において町内外からのお客様との交流をはじめ、5月17日に大阪狭山市市議会議員2名の視察、同じく大阪狭山市さやま未来プランナー5名の視察を受け入れた。さらに、3月13日には国立大学法人弘前大学大学院地域社会研究科 土井良浩准教授の視察を受けた。

観光・コワーキング・情報発信事業として、基山町の観光事業を観光協会から委託を受け、UNAラボラトリーズとの協働事業を行い、ワークショップ、コンテンツ作成などを実施した。また、懸案事項であったホームページリニューアルを行い、よりわかりやすい情報発信に努めた。